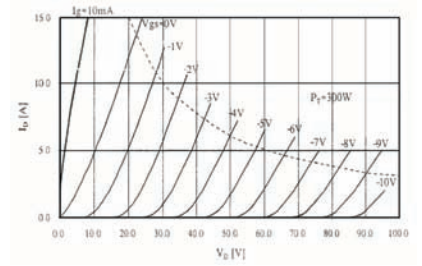


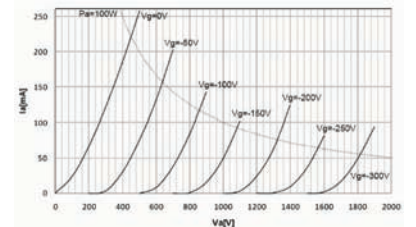
次世代SIT  
ステレオパワーアンプ

Proxima S.I.T-7000

SIT 2SK77B



Triode 845

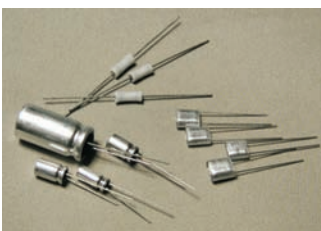


【本機の概要と特長】

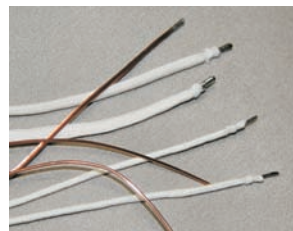
S.I.T-7000 は「三極管特性で音が良い」というSIT素子を採用した、高性能パワーアンプです。確かに三極管(例えば845)と本SITの入出力特性は驚くほど似ていますが、「三極管特性だから音が良い」という説明では誰も納得しませんでしょう。

弊社も当初はその「音の良さ」に関しては懐疑的でしたが、ひとたびこのSITをテストしてみるとそのポテンシャルの高さに改めて驚かされました。これが本アンプの開発を始めたきっかけです。SITの凄さは、例えばパワーアンプの出力素子、MOS-FET やバイポーラTrをパワーSITに置き換えただけでガラッとクリアな音に変貌することです。また、電圧増幅用の小型SITもバカに出来ません。経験上、接合型FETは大変良い音がしますが、それより更にクリアで深みのある音です。そこで、本機は信号系に関しては総てSIT素子のみで構成することに致しました。

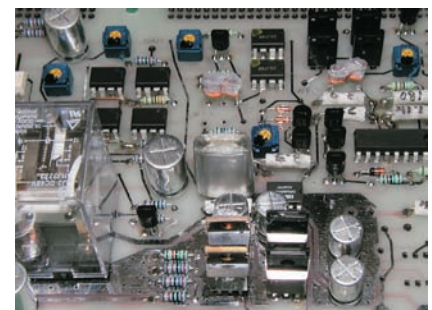
SITのもうひとつの特長は滑らかにカットオフする(2次特性)ことで、これによりアイドル電流と比べてAクラス動作域が広がることです。本機は約30WまでAクラス動作しますが、ヒートシンクは、ほんのり暖まる程度で、Aクラスを超える領域でも高速スイッチング特性の為、歪みの悪化は軽微なものに収まります。



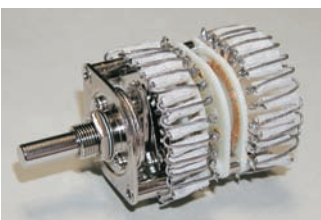
スケルトンパーツ



綿シースの7N銅配線材



「音が悪化するハンダレジスト」  
無しのプリント基板に実装さ  
れたスケルトンパーツ類

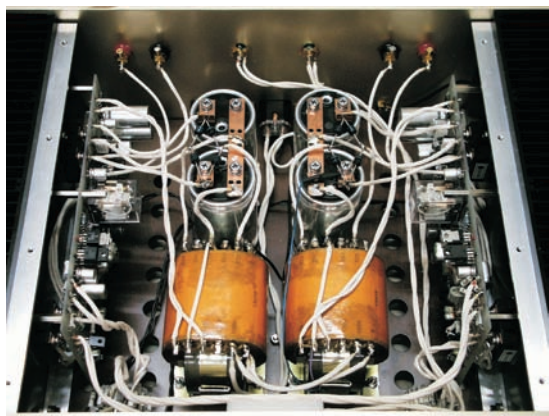


全スケルトン抵抗式  
超高音質ATT

## 【厳選パーツについて】

スケルトンパーツというのは前頁写真のように全く樹脂コートが無い製品のことで、総て自社製です。スケルトンパーツの特長は他の部品の様にエポキシ等のプラスチックで覆われた他社パーツと比較し圧倒的な音の明瞭度です。更に音のニゴリ感を完全に排除するため、総ての電解コンデンサーの外装は剥いて使っています。

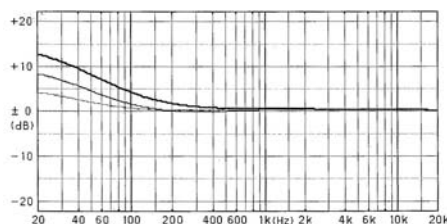
信号の入出力コネクタ類(入力ピンジャック&SPターミナル)は下地メッキの影響が大きいいため、どちらもダイレクト金メッキの製品です。また目立たない所ですが電源コネクタには大変高価な無メッキ銅無垢の製品を採用しました。次ぎに、アンプの音は筐体の材質に大きく影響されます。そこで本機では金属板より音の良い厳選木製パネルを天板と底板に配しました。



〈アンプ内観〉

白い線材は総て綿シースの  
7N銅配線材です

〈リアパネル〉



3段ローブースト特性

## 【本機の仕様】

- 独立電源による完全なモノラル構造
- 出力 60W x2 / 8 Ω (約 30W まで A クラス動作)
- 歪み率 0.003%以下 (50W / 8 Ω 時)
- 定格入力 1Vrms
- 超高音質23ステップATT(18 kΩ 入力)
- 3段階ローブースト回路
- スピーカー、オンオフスイッチ
- 防震構造ヒートシンク
- 消費電力 100W (無信号時)
- サイズ 150 H x 440 W x 330 D
- 重量 13 kg (合理的設計の軽量ボディ)

## 株式会社 日本オーディオ

〒164-0011 東京都中野区中央 5-4-24 第5小河原ビル 501号

TEL 03-5340-3020 FAX 03-5340-3023

E-mail: nipaudio@netlaputa.ne.jp

URL: <http://www.nipaudio.com/>